

第4次長期計画後半期3年目となる2007年度は、4長前半期における研究関連事業の実績と経過の反省を踏まえつつ、引き続き研究高度化推進事業や学内研究助成制度をはじめとした事業を継続して実施した。

また、ポスト第4次長期計画に向けて、これまで策定してきた研究計画を引き続き推進し、政府の第三次科学技術基本計画や研究を取り巻く諸情勢を視野に入れながら、さらなる研究実績の向上や研究環境の改善、また、研究支援体制の強化を図りつつ、21世紀に龍谷大学が世界に通用する先進的で卓越した研究教育機関として広く認知されるべく、本学における「研究支援に関する取り組み」、「研究高度化推進事業の展開」、「COEに関する取り組み」、「学外資金による研究の推進」、「付置研究所の取り組み」、「知的財産に関する取り組み」について積極的な事業展開を行った。

1) 研究支援に関する取り組み

研究支援に関しては限られた財源の中で研究者がより有効的に研究費を活用できるよう、2008年度からの実施に向け、長年の懸案事項であった個人研究費の非課税化や、出版助成制度の見直しを行った。また、今日の研究環境を見据えた上で、必要に応じて研究支援に関する学内諸規程の改正や整備を併せて行った。

2) 研究高度化推進事業の展開

私立大学学術研究高度化推進事業については、3ヶ年間継続申請をした「矯正・保護研究センター(AFC)」と「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター(ORC)」が継続採択され、2007年5月より研究活動を開始した。これにより、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業として2007年度は8研究センターを研究プロジェクトとして推進していくこととなった。

進行中の高度化推進事業のうち、「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター(ORC)」が補助事業最終年度を迎えたことに伴い、当該研究センターは将来構想を踏まえつつ、2008年度私立大学学術研究高度化推進事業に3ヶ年の継続申請を行った。

(オープン・リサーチ・センター整備事業 ORC)

研究組織名	地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター
研究テーマ	地域における公共政策と人的資源の開発システムの研究
研究代表	法学部 白石 克孝 教授
研究期間	2008年4月～2011年3月(3ヶ年) <継続事業>
研究事業費(研究費)	¥109,805,000円(3ヶ年)

また、他の進行中の研究センター事業について、本年度は「アフラシア平和開発研究センター(AFC)」と「革新的材料・プロセス研究センター(HRC)」が外部評価を実施した。

大学の独自研究プロジェクトとして進めているアフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査研究プロジェクトについては、国連の支援を得ながら第3次学術調査隊を9月から10月にかけて派遣する予定

であったが、現地在政情不安にあり国連から調査の延期要請があったため、今年度は急遽隣接するトルクメニスタン、タジキスタン、ウズベキスタンに調査地域を変更し、同国における仏教西漸に関する仏教遺跡調査を実施した。

3) COEに関する取り組み

文部科学省が実施する、世界最高水準の教育研究拠点形成および人材育成を目指したグローバルCOEについて、2006年度に申請した「アジア知の創成と世界標準策定拠点の形成」は不採択となった。2007年度は、2006年度に引き続きCOE推進委員会を設置し、COE担当学長補佐のもと2006年度の評価及び不採択理由を踏まえつつ、本学の建学理念や独自性およびこれまでの研究成果の蓄積を重視した、本学ならではの卓越した教育研究拠点としての以下拠点を2008年度グローバルCOEプログラムに申請した。

拠点名	「仏教文化に関する世界的教育研究拠点の形成」
拠点リーダー	入澤 崇経営学部教授
研究期間	2008年～2012年(5カ年)
研究事業費総額	1,250,000,000円

4) 学外資金による研究の推進

外部資金を積極的に獲得するために、科学研究費補助金に関する学内説明会や窓口相談の対応などに関してその取り組みを強化した。その結果、2007年度は採択金額も前年度より10%増となり、総額1億7千万円を超えた。

また、受託研究や奨学寄付金に関してもRECや研究者の努力により2004年度以降、総額1億円以上を維持しており、研究に係る外部資金獲得は順調に推移している。

しかしながら、より一層の研究の推進と研究環境の向上を図っていくためには学内資金以外の財源確保は重要な課題であり、科学研究費補助金等をはじめとした外部資金獲得を、今後もさらに推進していくことが肝要であると認識する。

5) 各研究所の取り組み

2007年度は、近年の学術研究の動向や研究を取り巻く環境変化を踏まえて2006年度に答申された「研究所の在り方」に基づき、各研究所において実施された共同研究や個人研究を通じ「研究所の独自性」「研究課題の多様化」に考慮した本学の研究基盤としての機能を果たしうる研究への取り組みを実施した。

とりわけ、仏教文化研究所では、研究推進体制を強化するためにその体制を一新し、建学の精神(浄土真宗・仏教思想)に基づく学際的な学術研究と国際的な高度教育プログラムを世界的レベルで発信することを目指し、研究所内の研究プロジェクトを一部センター化し、学術的交流の積極的な推進を図った。